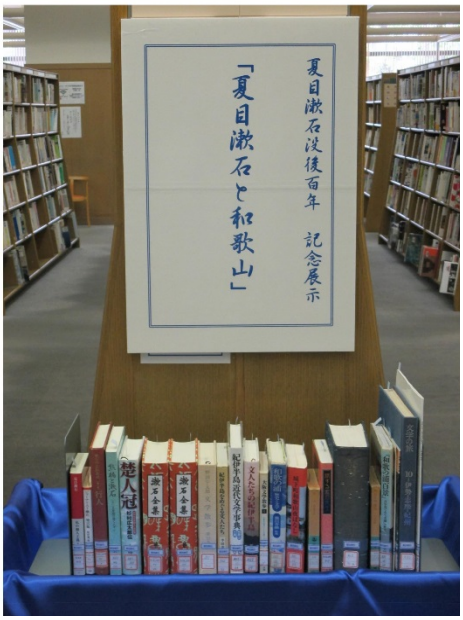
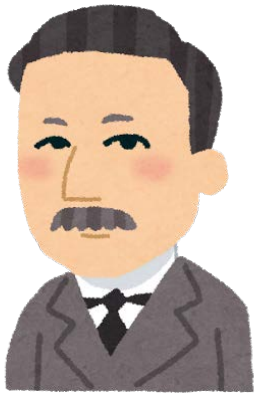
夏目漱石没後百年記念展示

場所：閲覧室　調査相談カウンター付近
期間：平成 28 年 8 月 2 日（火）～8 月 31 日（水）
内容：晩年、和歌山を訪れ、講演を行った夏目漱石。そのときの経験が小説『行人』に取り入れられています。また、『三四郎』で落語家の評価をしているほど、寄席によく通っていた漱石は、数々の作品にその影響が見られます。今回は、夏目漱石の没後百年を記念して、「夏目漱石と“笑い”」「夏目漱石と和歌山」の２つのテーマで、関連図書５０冊を展示・貸出します。



「夏目漱石と“笑い”」



実は、正岡子規と連れ立って寄席を巡るほどの落語好きだった夏目漱石。『吾輩は猫である』や『坊ちゃん』などユーモアのある作品も、そうした“笑い”の素地の影響が感じられます。

今回は、漱石と“笑い”に注目した本を紹介します。

展示リスト

	書誌情報	資料番号	請求記号
1	『文人たちの寄席』 矢野 誠一／著　白水社　1997	315422022	910.26/ヤノ/
2	『夏目漱石青春の旅』 半藤 一利／編　文芸春秋　1994	314713926	910.268/ナツ/
3	『漱石文学のユーモア』 和田 利男／著　めるくまーる　1995	314733981	910.268/ナツ/
4	『漱石先生大いに笑う』 半藤 一利／著　講談社　1996	315024612	910.268/ナツ/
5	『夏目漱石博物館』 石崎 等／著　彰国社　1985	315048652	910.268/ナツ/
6	『漱石のユーモア』 張 建明／著　講談社　2001	315873208	910.268/ナツ/
7	『笑いのユートピア』 清水 孝純／著　翰林書房　2002	320058621	910.268/ナツ/
8	『文豪ナビ夏目漱石』 新潮文庫／編　新潮社　2004	320553910	910.268/ナツ/
9	『夏目漱石の世界』 平凡社　2015	323325795	910.268/ナツ/
10	『漱石作品論集成　第1巻』 桜楓社　1991	313458507	910.268/ナツ/1
11	『漱石作品論集成　第2巻』 桜楓社　1990	313459430	910.268/ナツ/2
12	『漱石作品論集成　第5巻』 桜楓社　1991	313453201	910.268/ナツ/5
13	『米朝落語全集　第8巻』 桂 米朝／著　創元社　2014	322033507	913.7/カツ/8
14	『日本の名随筆　22』 作品社　1984	313935348	914.6/ニホ/22
15	『新選名著複刻全集近代文学館 [10-1]』 日本近代文学館　1970	316437417	918.6/シン/10-1
16	『新選名著複刻全集近代文学館 [10-2]』 日本近代文学館　1970	316437425	918.6/シン/10-2
17	『新選名著複刻全集近代文学館 [10-3]』 日本近代文学館　1970	316437433	918.6/シン/10-3
18	『精選名著複刻全集近代文学館　9』 ほるぷ出版　1973	326522034	918.6/セイ/9
19	『新日本古典文学大系　6』 岩波書店　2006	320731201	918/シン/6
20	『直筆で読む「坊っちやん」』 夏目 漱石／著　集英社　2007	321027708	F/ナツ/
21	『坊っちゃん』 夏目 漱石／作　岩波書店　1985	311722219	シ5/10-3/
22	『虞美人草』 夏目 漱石／作　岩波書店　1984	311722235	シ5/10-5/
23	『三四郎』 夏目 漱石／作　岩波書店　1990	316274646	シ5/10-6/
24	『硝子戸の中』 夏目 漱石／作　岩波書店　1979	311722300	シ5/11-2/
25	『現代語で読む坊っちゃん』 夏目 漱石／作　理論社　2012	322156969	ヤF/ナツ/
26	『吾輩は猫である』 夏目 漱石／著　新潮社　2003	323094888	ヤF/ナツ/
27	『草枕』 夏目 漱石／[著]　講談社　1979	311103899	9/K5/410

このほかにも、夏目漱石の作家研究についての図書は請求記号「910.268／ナツ」（閲覧室：棚番号 27）に、落語家については「779.1」（棚番号 25）、落語集は「913.7」（棚番号 28）、漱石の著作は『漱石全集』「918.68／ナツ」（棚番号 30）等にあります。棚にない図書は調査相談カウンターにてお尋ねください。

漱石の“笑い”への関心がわかる図書

『三四郎』夏目 漱石／作

作中で登場人物に「（三代目柳家）小さんは天才である。あんな芸術家は滅多に出るものじゃない。」「（三代目三遊亭）円遊も旨い。」と語らせている、漱石の落語好きが垣間見える作品。主人公の友人、与次郎の性格は豪胆かつ愛嬌があり、三四郎とのやり取りがユーモラスです。

『漱石文学のユーモア』和田 利男／著

『吾輩は猫である』『坊ちゃん』『三四郎』など、漱石の初期作品のユーモアを分析し、論じた本。「負け惜しみのユーモア」「食欲のユーモア」等、ユーモアの種類で分類しているのも面白いです。

「夏目漱石と和歌山」

夏目漱石は、１９１１（明治４４）年８月、大阪朝日新聞が主催する講演会に招かれて、和歌山市に２日間滞在しました。

展示リスト

	書誌情報	資料番号	請求記号
1	『旅する漱石先生』 牧村 健一郎／著　小学館　2011	321758153	910.268/ナツ/
2	『漱石作品論集成　第9巻』 桜楓社　1991	313453540	910.268/ナツ/9
3	『ジャーナリスト漱石発言集』 夏目 漱石／[著] 朝日新聞社　2007	321036261	914.6/ナツ/
4	『私の個人主義ほか』 夏目 漱石／[著] 中央公論新社　2001	321882599	914.6/ナツ/
5	『漱石全集　第20巻』 夏目 金之助／著　岩波書店　1996	316393545	918.68/ナツ/20
6	『漱石全集　第27巻』 夏目 金之助／著　岩波書店　1997	316393610	918.68/ナツ/27
7	『和歌山県史　近現代 1』 和歌山県史編さん委員会／編集　和歌山県 1989	313585069	A12//71-6
8	『熊楠と漱石』 岩渕 幸喜／著 ［岩渕 幸喜］ 2011	316426428	A18.3/M6/153
9	『楚人冠』 小林 康達／著　現代書館　2012	326725421	A18.3/S59/2
10	『文学の旅　10』「文学の旅」編集室／編　千趣会　1972	311487961	A52//14
11	『野田宇太郎文学散歩　第19巻』 野田 宇太郎／著　文一総合出版 1977	311487888	A52//2(2)
12	『大阪文学散歩　2』 関西文学散歩の会／編　関西書院　1981	311488134	A52//28
13	『紀伊半島をめぐる文人たち』 半田 美永／著　ゆのき書房　1987	313615825	A52//32
14	『和歌山県近代文学史稿』 半田 美永／著〔皇学館大学〕 1996	316108752	A52//49
15	『紀伊半島近代文学事典』 浦西 和彦／編　和泉書院　2002	316122902	A52//53
16	『文人たちの紀伊半島』 半田 美永／著　皇學館出版部　2005	316199165	A52//57
17	『和歌の浦』 藤本 清二郎／共編　和泉書院　1993	311048102	A81/10/62
18	『和歌の浦百景』 藤本 清二郎／編著　東方出版　1993	326501111	A81/10/63
19	『写真にみるあのころの和歌山』 和歌山市立博物館／編　和歌山市教育委員会　2011	326724804	A81/10/85
20	『城下町和歌山夜ばなし』 三尾 功／著　宇治書店　2011	316427673	A81/10/87
21	『名勝和歌の浦』 和歌山県文化遺産活用活性化委員会／編　和歌山県文化遺産活用活性化委員会　2012	326519857	A81/10/92
22	『行人』 夏目 漱石／著　岩波書店　1970	311722284	シ5/11-0/
23	『漱石文明論集』［夏目 漱石／著］ 岩波書店　1986	311722383	シ5/11-10/

【漱石の和歌山滞在を記した図書】

１９１１年８月１４日、快晴の和歌山に漱石は南海鉄道でやってきました。

宿泊先である和歌浦を訪れ、エレベータで玉津島神社の背後にある奠供山（てんぐさん）にのぼり、その後、紀三井寺へ向かっています。翌１５日には、新和歌浦遊園地・東照宮・片男波に立ち寄り、昼から県議会議事堂（現在の和歌山中央郵便局付近）で「現代日本の開花」と題して講演を行いました。

この２日間の漱石の足跡を、**『漱石全集』**（岩波書店）の第２０巻にある日記で知ることができます。また、漱石の小説**『行人』**にも、和歌山での２日間を題材にしている場面が出てきます。今回の展示図書から、漱石が見た和歌山を実感してください。